

山鳥毛フォーラム

山鳥毛の購入に税金を使っていいのか。
—税金を使うことの重さを考える—

議 事 録

平成29年2月26日

上越市市民プラザ 第二会議室

主催 [山鳥毛フォーラム] 実行委員会

山鳥毛フォーラム

山鳥毛の購入に税金を使っていいのか。—税金を使うことの重さを考える—

次 第

日時 平成29年2月26日 13時開始

場所 上越市市民プラザ 第二会議室

主催 [山鳥毛フォーラム] 実行委員会

1 参加者

パネリスト (順不同)

石田明義さん、永野富士夫さん、佐藤真司さん、
河野健一さん、横山郁代さん、宮澤 隆さん

アンカー 中村真二さん

司 会 瀧田雅恵さん

村山秀幸 上越市長

一般参加者 約100名

2 次 第

開 会

挨 拶 実行委員長 今井 孝

村山秀幸 上越市長

第一部

(1) パネリスト紹介

(2) アンカー紹介

(3) パネルディスカッション

第二部

(1) 会場参加者からの質問をもとにしたパネルディスカッション

(2) 当日アンケートおよび集計結果発表

挨 拶 村山秀幸 上越市長

副実行委員長 松澤優作

閉 会

議事録 目次

1	開会	4
2	実行委員長挨拶	4
3	村山秀幸市長 挨拶	6
4	流れの説明	7
5	パネリスト紹介	8
6	アンカー紹介	8
7	第一部 ～パネリスト自己紹介～	9
8	第一部	14
9	第二部	22
	●質問 その1	22
	●質問 その2	24
	●質問 その3	25
	●質問 その4	26
	●質問 その5、6	27
	●質問 その7	29
	●質問 その8、9、10	29
	●質問 その11	31
10	アンケート	35
11	村山秀幸市長 挨拶	36
12	閉会	37
	資料	38

※この議事録の書き起こしにあたりまして、
永野聖子さん、「ながおか史遊会」より湯本泰隆さん・恩（めぐみ）さんご夫妻の
ご協力をいただきました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

1 開会

瀧田さん（以下司会） お待たせいたしました。ただいまより、[山鳥毛フォーラム] 山鳥毛の購入に税金を使っているのか。—税金を使うことの重さを考える— を開会いたします。

本日司会を務めます、瀧田雅恵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

最初にみなさまにお願いです。携帯電話をお持ちの方は、進行の妨げとならないよう電源をお切りいただくか、マナーモードに設定をお願いいたします。

また、「山鳥毛」の名称ですが、今回上越市では「太刀 無銘一文字（号 山鳥毛）（たち むめい いちもんじ ごう さんちょうもう）」と呼んでいます。今日は「山鳥毛」と略させていただくことをご了承ください。

2 実行委員長挨拶

司会 それでは始めに、今回の[山鳥毛フォーラム]の主催者であります山鳥毛フォーラム実行委員会より、実行委員長今井 孝が開会にあたりましてみなさまにご挨拶を申し上げます。

実行委員長 今井 みなさんこんにちは。日曜日というご多用中のところこんなに大勢にお越しいただきまして本当にありがとうございます。山鳥毛フォーラム実行委員会実行委員長今井 孝です。よろしくお願いいたします。

今日は本当にですね、最初何人になるのかなって感じだったんですけど、電話で結構お問い合わせいただいているところそこそこいらっしゃるかな—とっていて、ほんとこんなぎっしりになるとは思ってなかったので、まずその辺はお礼申し上げます。今回挨拶5分で設定してあるので、途中で長いとチーンがなるようにしてますので。今回山鳥毛フォーラムを開催することになったその意図というかな、ちょっとご説明を3点ほど申し上げようと思います。

まずですね、今回テーマを見ていただきますと「税金を使うことの意味」というふうに書かせていただきました。これはみなさんご承知だと思んですけども、その3億2千万をまず税金を充てるっていう、今回新年度予算案ができましたけれども、それについて一市民として本当にそれでいいのかなと一発目で思った事なんです。

それをまず普通に率直に思った事なんですけども、私簡単に自己紹介をしておきますと、出身は埼玉県でして7年半前に上越にひょんなことから来ることになりました。それで今住んでいるのは春日で、今、春日区の地域協議会の委員をやらせていただいて今年度からおるんですけども、本業は今タイヤ販売業をやっております。本来全然そういう職種の間人じゃなかったんですけども、タイヤ屋の社長をやる事になってしましまして経営をやっているんですね。2度目の起業で1回目は倒産とかしているんですけど、その中で経営をやっていると税金っていうのは結構きつい。おかげさまで3期連続黒字なんですけど、そうすると今度税金を払わなければいけないんですよ。本当にヒーヒー言ってます。で、ましてや個人的にも非常に税金は苦勞してまして、市の収納課には非常に迷惑をかけている、マークされているものと思うんですけども、それくらい税金というのは結構

払うのが大変なんです。

そこにこう3億2千万、刀でポーンという話が出たときに、そうでなくても建物とかいろいろと今作っているのがありますし、そこでこれは本当にいいのだろうかというのが一つあります。それは思われる方も多いとは思いますが。

その税金の話はまた今日お越しのゲストの方もお話していただきますので、2個目なんですけど、結構長くなっちゃうかな。端折るにも端折れない。2個目は民主主義っていうすごい大きな話なんですけど、日本って民主主義だって国だっていう話なんですけども、実は全然実感がありませんで、僕らがやれることっていうのはですね、投票しているだけに過ぎないと思うんです。

投票すると、自称代表って言っている方々が代わりに議論してくれるっていう話になっているんですね。なんですけど、今回の山鳥毛についてもその議論と市民の意見がどうも食い違っているような気が僕はするということなんです。それなので、そうなったらじゃあもう自分でやるしかない。そもそも自治というのは自分で治めるっていうこと、自分達で治めるって事ですから、自分たちでもうちょっと発言をして自分たちで意見を言っているというのがとてもいいんじゃないかなと僕は思うわけです。で、それで市民の手作りで市民の市民による市民のための集まりをやってみたいと思ったのが一つですね。

3点目なんですけども、それでやろうとしたときに、僕は旅の人間ですから比較的言いたいことをインターネットも含めて言ってるんですけど、若い人、うちのスタッフも若いのもいますし、若い知り合いが何人もいますけど、こういうのあるんだよ、こういうのやりたいよって言ったときに、いや、いいよって遠慮されちゃう。

それは何かっていうと、上越で今井みたいにあんまり言いたいことを言っていると年長者がうるさいんだよって言うんです。(会場少々苦笑)言うんです。それで、だから言えない、だから俺たち黙っているんだ、そうじゃないと、で実際問題年に関わらないんですけど、パネリスト6人、今回みなさんやっていただくことになったんですけど、結構、揃うまでにいろいろと苦難の道のりがありまして、こちらからいろいろと打診させてもらった部分もあるんですけど、自分はこれこれという意見なんだけど、周囲がその逆の意見だからちょっと出れないっていう人が何人もいました。

これはどういうことなんだと。さっき民主主義って言いましたし、日本は自由の国のはずなんですけど、言いたいことを言うといろいろと問題があると、それはどういうことなんだろうなというのがあがるんですね。なので、とにかくその声を形にする場所が必要だと思ったんです。

一応、ここで申し上げておきますけども僕は今回は募金で買うならいいけれども、税金を使うのは反対という立場なんです。これはあくまでも僕の意見であってみなさんがそうじゃない意見でも全然問題ないはずですよ。それを僕がなんでだ、それはダメだろって言う資格は当然ありません。ただ今の日本も世界もそうなんですけども、反対の意見っていうのに対して、どうも相手を屈服させようとする人が多い。世界中を見て。それが戦争になるんですよ。戦争になるっていうのは相手の立場を認めないっていうことですから、それをやっているっていう内はダメなんです。

なので、今回僕はこのフォーラムをやるにあたって思ったのは、反対でも賛成でもいいんです。意見が違う人が、賛成集会でもなくて反対集会でもなくて、意見が違う人が同じ場所に集まって健康的に後腐れなく相手の意見を尊重して聞く。もうこれに尽きる。これができれば多分さっき民主主義って言いましたけど、日本ではたぶんあんまりこういう集まりはない、で、まず間違いなく歴史は変わります。僕はネットで(自称)革命家って言ってるんですけども、本当に世の中変えることができると思うんです。なので、まず今日、賛成の意見でお越しのみなさんも、反対でお越しの

みなさんも、今日はパネリストがメインでお話していただくんですけども、「なるほどな」っていうのを一つでも持ち帰っていただきたいと思ってます。自分と意見が違ったら「なんだあの野郎」と思わないで、「なるほどな、そういう考えもあるのか」っていうの、を嘘でもいいから一つ持ち帰っていただきたい。その後で絶対何か変わりますので。そういうような期待を込めて。

で、村山市長に今日お越しいただいております。これはすごいことなんですけど、その経緯について話すと本当に長くなっちゃうので、また機会があればお話ししますし、ネットでも散々書いていますけども、今回、こういう賛成反対がぶつからないところに対して、村山市長はじめ秘書課、文化行政課のみなさん、他の課のみなさんもそうですし、勇気をもって応募していただいたパネリストや実行委員のみなさんに対して本当に感謝申し上げますし、これが上越の何かを変える最初の小さい一つになればと思ってますので、これから先ちょっと3時間長丁場ですけども、いろんな意見を聞いて、途中でみなさんに書いていただくのもありますので（チーン ベルの音）発信していただいて（チーン）あっ、チーンが鳴りましたね。なので有意義な時間を過ごしていただければと思います。よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。（拍手）

3 村山秀幸市長 挨拶

司会 本日は村山秀幸上越市長にもお越しいただいております。

ここでご挨拶をいただきたいと存じます。村山市長、よろしく願いいたします。

村山秀幸市長 みなさんこんにちは。（拍手）

この町もすでに春一番が吹き、そしてまた気がつけば3月弥生の時期であります。寒も峠を越してくる時節ですので高田公園ではもう梅の花が咲いたという話もあります。寒い水の中にもまた、陽だまりの暖かさの中にもですね、春の息吹が感じられる。そういう気持ちのいい時になりましたが、今日はこのようなフォーラムであります。大勢お集まりいただきましたみなさまには、日ごろから当市の市政の運営についてですね、深いご理解をいただきながら、またひとかたならぬ惜しみないご支援とご協力を賜っております。心から感謝申し上げますし御礼を申し上げます。是非どうかこれからもよろしく願いをいたします。

ご案内の通り、上越市では上杉謙信公・景勝公が愛用した国宝太刀無銘一文字、号は山鳥毛です。この上越の地に、ふるさとに迎え入れるということを通じて、この地域の中にですね、ふるさと上越をもう一度考えてみよう、また次の代に繋げていこうという取り組みをしていくことになりました。この（平成）29年度予算に購入費3億2千万プラス購入にかかる経費等をですね、盛り込みながら、この3月1日から始まります3月定例会に予算案として提案をさせていただいているところであります。

市として市民の気持ちを一つにしながらこの市民の宝を迎え入れることを通じてですね、この上越地域の市民のみなさんがふるさとに対する愛着とそして誇り、そのことをですね、持てるそんな時期を迎える、まさにいいチャンスだというふうに思って提案させていただいたところでありますし、このことを通じて市民がまた次の時代そしてまた後世の市にさらには後世の地域社会にこのことを留めて、そして末永く繋げていきたいというふうに思っているところであります。

この間、教育委員会では市内28カ所において市民のみなさんに向けた講座を開催いたしました。

また一方ではホームページにも掲載しながらですね、このことに対するご理解を深めていただくという取り組みをしてきたところでもございます。この内容については、じゃあ太刀が取得されたらどうやって活用するんだという積極的な意見もいただきながら、多くの方に好意的に捉えていただいた一面もあります。しかし一方で、財政等が厳しいという中でこの予算を執行するのは太刀を購入する事については異論だという声も知っているところでございます。

実は今日はこのようなフォーラムをですね、山鳥毛フォーラム実行委員会の今井会長はじめとして、こういうふうにしつらえていただきました。この中で、この取得について賛成も反対も問わず市民・議会・行政そのことの垣根を超えながら率直な意見交換をするという場をしつらえていただきました。このことについては心から感謝申し上げたいと思います。

私も常々思っているんですが、お茶飲み話、道で立ち話する会話、会話の中で発せられること、賛成・反対という意見もあるでしょう。しかし、議論、討論ということで自分の気持ちだけを変えないで俺は正しいんだと言いながら最後まで議論することも多いでしょう。しかしこういうフォーラムは、私は「対話」であって、自分の思いを語る、そして相手の思いを忖度しながら自分自身がこの相手の意見との関係で自分の意見を考えていくという、そういう対話の場、このフォーラムはその場というふうに思いますので、非常にありがたいことだし、民意をある程度これからの時代まとめていくためにはこういったことが大事なんだろうというふうにも思っているところであります。

まさに我々が、それぞれ一人一人の考えを持ち、複雑な考え方の中で多様化してきている中で、それをまとめていくのは非常に難しいところではありますが、こういう形の中でしっかりと自分の思いを語り、相手の思いをまた理解しようとするその取り組みがですね、今日ここでなされるんだろうと思いますし、このことを通じて、このフォーラムを通じて、この太刀をですね、購入することに対する理解なりまたその思いをですね、改めていただくということにもなるのかなというふうに思っています。

この今日、ぜひともですね、私どももしっかりと自分たちのものにしなごう世間に回ればと思っ
ている所でございます。今日はこの日曜のお忙しいなか、これだけ実行委員会のところにおいてお集まりしていただいたみなさんに私からも心から感謝申し上げ、そしてまたこれからの市政にご協力いただくことをお願い申し上げて今日は挨拶とさせていただきます。今日は大変ありがとうございました。(拍手)

4 流れの説明

司会 村山市長ありがとうございました。

それでは本日の流れをご説明いたします。

第一部としてパネルディスカッションを行います。本日は山鳥毛の税金による購入について、賛成や反対の意見を持つ方にパネリストとしてご参加いただいております。

パネリスト同士による質問のやりとりをする中で、会場のみなさまには今回の山鳥毛を税金で買う意味などを考えていただきたいと思います。第一部は約1時間程、2時15分くらいを目途に予定しております。

その後、15分の休憩をはさみまして、第二部として、会場にお越しいただいたみなさまからの

ご質問にパネリストの方が答えていただきながら進行してまいります。

受付の際にお渡しした用紙についてご説明いたします。

1枚目は本日の次第となっております。

2枚目はご来場のみなさまからのご質問を書き添えていただく用紙となっております。こちらには山鳥毛の税金での購入について、ご質問をお書きください。休憩時間中に受付にお渡しいただくか、実行委員が回収に回ります。

第二部にて取り上げてさせていただきますが、ただし全てのご質問を取り上げきれない場合もございますのでご了承ください。

3枚目はアンケート用紙となっております。

アンケート用紙は当フォーラム終了時間が近くなりましたら実行委員が回収させていただきます、最後にこの場で集計します。フォーラムにご参加いただいた上で山鳥毛の税金での購入についてどのようにお考えになるか、現在のお気持ちをお選びください。

5 パネリスト紹介

司会 それでは、本日のパネリストのみなさまをご紹介します。

向かって右側から

- ・石田明義さん（いしだ あきよし）さん（拍手）
- ・永野富士夫さん（ながの ふじお）さん（拍手）
- ・佐藤真司さん（さとう しんじ）さん（拍手）
- ・河野健一さん（かわの けんいち）さん（拍手）
- ・横山郁代さん（よこやま いくよ）さん（拍手）
- ・宮澤 隆さん（みやざわ たかし）さん（拍手）

以上6名のみなさんです。パネリストのみなさん、本日はよろしく願いいたします。

また本日はパネリストのお一人の発言を一回あたり3分までとさせていただきます、3分を超える場合はベルを鳴らします。（チーン ベルを鳴らす音）

ご協力をよろしく願いいたします。

6 アンカー紹介

司会 ここで、フォーラムの流れを進めていただくアンカーの方にバトンタッチをしたいと思えます。本日のアンカーは上越志民会議を主宰されている中村真二さんです。中村さん本日はよろしく願いいたします。

中村さん よろしく願いいたします。（会場拍手）

中村さん（以下アンカー） はい、改めましてみなさんこんにちは。（会場からこんにちはの声）今日はまず、この貴重な機会を作っていただきました実行委員長の今井さんと、それから市長の村山さんありがとうございました。大変今日はですね、貴重な時間になるんじゃないかなと思います。そして、このね、一般市民同士が意見を言い合い、述べあって会話をする場にパネリストとして前でね、出てきていただいたパネリストのみなさん、本当にありがとうございました。

何というんでしょう、私も含め別に専門家なわけではないし、一般市民としてね、意見をこう前に出てしゃべるといのはなかなか勇気のいることだと思います。今井さんの方からはパネリストになってもらう方を選ぶというか、苦労したっていう話もさっきでできましたけれども、そういった中で前に出てきていただいたのは本当に貴重なことだなと思います。

そして今日はね、今日もいろんなイベントや仕事もある中で、この場所に集まっていたいたみなさんも、今日の方がやっぱり貴重なものだと思っていただいたから来た、集まってもらったんだと思うんですね。このみなさんの思いってすごく大事なことで、この今日の時間を大切に過ごしていければなと思います。私も未熟ながらアンカーという役職つけていただきましたけど、重石（おもし）ですね。この今日の会の趣旨から外れないように、みなさんの思いを裏切らないように、大切な時間にできるだけしていけるように未熟ながら頑張りたいと思いますのでよろしく願いいたします。（会場拍手）

7 第一部 ～パネリスト自己紹介～

アンカー えー、それではですね、第一部は午後の2時15分まで、2時15分で途中で休憩が入りますが、それまで進行させていただきます。

最初はですね、まずパネリストのみなさんから賛成・反対のそれぞれの意見について、自己紹介を交えながら第一声ということでお話していただきたいと思います。

おひとり先ほど司会のほうからもありましたけれど、3分以内ということで、3分たったらチーンが鳴ると思いますので、チーンが鳴ってしまったら切り上げていただいて、よろしくご協力をお願いいたします。

それから、今日は市長さんはじめ行政の方も来ていただいていると思いますが、今日はなにぶん一般市民による話し合いの場ですので、たとえば数値的なもので勘違いがあるとか、もしそういうところがあったら「その数字はちがう」とかも、そういうことがあったら指摘をしていただきたいと思っていますので、その際にはこちらのチーンのテーブルにいるスタッフに声をかけていただければマイクをお渡しすることもありますのでよろしく願いいたします。

はい、それではまずパネリストのみなさんから第一声をいただきたいと思います。まずは右側の石田さんからお願いいたします。

石田さん これ、立ったほうがいい？ 座ってやる？ いいですか。

それでは、紹介いただきました「義の心」の会代表者石田でございます。

まずをもってですね今日このような会を設立いただきました実行委員長様はじめみなさま方に感謝申し上げます。ありがとうございます。まず私のほうからポイント、自己紹介等々お話しさせていただきますけれども、まずですね当「謙信公『義の心』の会」は「謙信公義の心」を

探求してまちづくりに活かすために発足した会でございます。

この会はですね、ここ山鳥毛一文字購入はですね、これはあくまでも購入主体は上越市が主体でありまして、当方には意見を求められたというのでご意見申し上げたところでございます。ちょっと誤解されたので、決して太刀購入を前提に組織された会ではないということをごすね、申し上げておきます。

それで一昨日金曜日（注 3月24日）、会のほうから「上越PRIDE」、この86ページのようにですね、提言書を上提させていただきまして市長さんにお渡しさせていただきました。86ページの中に25項目の提言で掲載させていただきました。もちろん、山鳥毛を活かした活用方法全て載っております。ですので、より良いですね、未来志向で未来の子供たちに向けてまちづくりに活かしていただくと、そういう会でございます。

そこでですね、すみません、この会にですね先立ち一言私のほうからお話ししたいと思うんですけども、ちょっと残念なですね、ちょっと非常に遺憾なんですけれども、私別にFacebookとかSNSとかTwitter知らないアナログ人間なんですけど、今朝ちょっと友人から連絡がありまして、昨日だそうなんですけど、この山鳥毛一文字の所有者の方の実名・住所・電話番号・会社名がですね、アップされたそうです。しかもですね、ここに「3億2千万がおそらくここに行きます」とのコメントも付記されていたそうなんです、私とっても残念で、せっかくみなさんご苦労してこういうですね。今日会を設定されたにもかかわらず、やはり私はフェアプレーで正々堂々のご意見交わしたいと思って来ておるんですけども、たぶん、関係者の一部の方々と思うんですけどね、非常に残念です。今日村山市長さんもいらっしゃっておりますし、今日臨席された方にも失礼にあたるんじゃないかなあとと思いますので、そういった、もしかしたらおそらく大きな問題に発展する可能性もございますので、特定の個人を特定した住所電話番号はやっぱりおやめいただきたい。厳に慎んでいただかないとですね、こういった議論の存続自体も危ぶまれるんじゃないかなと思いますので、厳に慎んでいただきたいと思い、もし関係者の方いらっしゃいましたら最低限のマナーきちんと守っていただく上で、こういう議論設定いたしませんか？ そこだけお話ししたいと思います。よろしくお願い致します。（会場拍手）

アンカー ありがとうございます。続きまして永野さんよろしく申し上げます。

永野さん はい、今日はどうもよろしくお願い致します。一市民なもんで特別何か語り合うというわけでもなんでもありませんし、何か専門分野で勉強してきたわけではないです。ただ、せっかくこういった機会に巡り合えた僕らのこの年代で、この上越の永遠なる宝になるのかどうなのかっていうところを議論ですね、やっぱり首つっこんでいかなきゃいけないんじゃないかなあ…そういうことで参加させてもらったことにすごいうれしさを感じます。

それと、今回こういうすごいたくさんの方が興味を持ち、またご意見を持っていらっしゃる方がいるんだなあということをしみじみと感じてですね、やはりこれは大事なですねフォーラムなんだなあってことを改めて感じさせていただいています。

私は一民間の会社の社長をやってまして、お土産屋さん、観光施設、ホテル・旅館等々にですね、業者として顔出している者ですし、やはり観光地というものに対し、すごい時代に入り私たち業者としてもやはり存続にかかわるものであります。

上越妙高駅ができてもう1年2年経ちましたけれど、やはりすごいブームの中で駅の周辺また

駅の中はごった返してですね、やはりすごい潤った企業もたくさんありまして、ただ、それが過ぎたときに今、じゃあどんなんだろう、やはり市としてもいろんなイベントをやってくださっておりますが、やっぱりそこにもう一つ目玉となる「上越に来たなら謙信の何々を、謙信の太刀を」というですね、やっぱりモノがないとかなり最後の観光のですね、人を寄せる、引き寄せる物がならないんじゃないかなと思います。

昨年本当にありがたくもメイドイン上越の認証をいただきまして、やっぱり観光地にもっと潤いをまた元気になってもらおうと思って私も必死になって新商品、また新しい商品の開発等にも頑張っている次第でありますけれども、そういった意味で人を寄せるのには必要なものではないかなと思います。

また、購入方法についてはもっともっと議論をしてですね、良いものは良いと思いながらもその中の購入の仕方には議論がまだまだ必要んじゃないかなというふうに感じている次第です。

いずれにしても、こういったフォーラムが実りある良いものになっていけば次の段階に進むんじゃないかなというふうに思っています。また今日は一日よろしく願いいたします。(会場拍手)

アンカー ありがとうございます。続きまして佐藤さんよろしく願いします。

佐藤さん はい、佐藤真司といます。私は謙信公の熱烈なるファンです。この彼を通じて、二、三おしゃべりをさせていただきます。

まず私は観光を通して、観光ボランティアで約15年間体験しました。

二番目、上越観光写真コンテストとあって、上越の良いところを全部PRを約10年間体験しました。さらに高田開府400年祭です。その中で唯一老人クラブで先ほど言いかけた400年祭のお祝いに最後のご奉公をしようということで3年間関わりました。

8月の23日に新聞を読みました。山鳥毛の国宝の話が出てきました。これ私たち今年の7月(注8月か)23日以前はそういう関心はまったくありませんですし、ニュースがありません。私たちの仲間がみんな70、80歳になります。最後に何を残すんだろう、そんな思いで私は上越市の税金を使わせていただいて是非賛成の意見を述べたいと思っています。

また、ひとつ気づいたことがあるんですけども、寄附をしたいけれどもどういうふうにしたらいいものか、老人でお金を上越市のほうへ寄附したいんだけどその方法がはっきりわからない。もしかしたら寄附だから大きなお金じゃない、たとえば千円でも二千元でもいいんじゃない、そういう人たちがたくさん集まって私たち年配者の残すものをここでみなさんと議論していただいて、一つの方向へ目指せばよろしいかと思えます。

私たちは80歳で何を残すかということを、私たちが真剣に考えて今日のパネリストに参加させていただきました。ありがとうございます。(会場拍手)

アンカー ありがとうございます。続きまして河野さんよろしく願いします。

河野さん みなさんこんにちは。上越市国府3丁目の河野と申します。

まず初めにこの場を設けていただきました実行委員会のみなさまありがとうございます。普段あまり人前で話すことが得意ではないので、ちょっとこれ(用意した紙)を見させて話させていただきます。この山鳥毛について、とても素晴らしく上越、上杉謙信公の愛刀として上越にあればいい

など私も思います。

でもしかしながら、購入において市税を使うことは絶対反対です。現在の上越市の財政状況によると、合併による特例で割増しで交付されていた普通交付税が縮減して、歳入より歳出が上回って財政負担がものすごく多くなっていますね。この自治体のこのような状態だと思いますが、上越市も年々人口が減少し、税収が減るのは目に見えています。税収を増やすためには生産年齢人口、すなわち若い人たちを増やすことだと思います。人口減少に歯止めをかけつつ、上越に住みたいと思えるような取り組み、そのためには住みよいまちづくり、仕事であったり子育てであったり、もちろん観光も大事だと思います。

この若い人たちが果たして太刀に興味があるのでしょうか？ 特に女性なんかは興味がないかと思いますがいかがでしょうか？ 「市の所有物だからそれは違う」と言われるかもしれませんが、賛成・反対以前にこの興味のない人たちからすれば義の心ではなく、利ではないのでしょうか？ 募金の投入額もまだこの通りです。そのほとんどが税金、市民のお金です。

太刀購入による効果ですが、確かに博物館のレベルが高まるでしょうが集客力は果たしてどうでしょうか？ 以前大河ドラマの影響により春日山城で大勢の観光客が来ましたが、「がっかりした、もう来ない」など話を耳にしました。もっと春日山城、林泉寺その周りに観光客が喜ぶような仕組みを作れば、大金をかけて多少かかるとも十分集客できると私は思います。

最後に春日山城跡保存整備促進協議会のみなさま、草刈りや整備をさせていただきありがとうございます。以上、終わります。(会場拍手)

アンカー ありがとうございます。続きまして横山さんよろしく申し上げます。

横山さん 今日はたくさんみなさまにおいでいただきありがとうございます。横山郁代と申します。

本日私がですね、こういうパネリストとしてお声をかけていただいたことに対して非常に感謝しております。最初はですね、パネリストになることに対して非常に抵抗がありました。最初にパネリストとして紹介された方が実はちょっと今日は別の会場で会議に出ることになりまして、どうしても自分はそちらのほうに行きたいって、代わりに誰かを紹介してくれないか、というのが私に声がかかった最初の一言でした。

その時に私は、ほかに誰かどんな人がパネリストとして参加をしますか？ と聞きましたら、ほぼ全員男性だということだったんですね。で、あっそうなんだ、男性なんだ、なんでそんな場に女性がいなくて男性だけなんだろう、とってもなんだか不思議な思いがいたしました。

私は日ごろ植物療法士という仕事をしておりまして、高齢者の施設の余暇活動ですとか、それから健康づくりに関する講座を公民館とか町内会とかそういうところに出向いてお話をさせていただいております。

そういうところでは意外と女性の方、高齢の方、たくさんの方がご参加していただきまして、いろんな意見をこういうふうに思う、ああいうふうに思うってことで、活発にいろいろ言ってもらえます。でも、いざこういうたくさんの方になると「いや、私なんか私なんか」みなさん一言もご自身の意見を言えないということがたくさんあります。

日ごろからそういうのを感じておりまして、やっぱり誰かが女性の立場としてひとこと何か言うことがあってもいいのかなということ、今回はお引き受けをいたしました。

私は太刀を買うことについては、基本的に歴史的な価値のあるものということであれば、文化的な財産、それを上越市で財産を持つということに関しては価値があるのかなというふうには思います。ただ、そこをそのどうやって買うか、その買うことの過程を果たして市民が納得して買うのか、そういうところに非常に関心があります。

ほかにもですね、やっぱり優先してお金を使うべきことがたくさんあるのかなということも日ごろから感じております。もっと「税金」ということではなくって別の形で買えるのであればそれが市民力を育てる知恵になれば、むしろそのほうが良いのかなというふうにも考えております。

今回はそういう、こうした税金の使い方を考えるフォーラムであるということもありまして、この場にいさせていただいております。私の考え方を(チーン)何かの形で表現できたらと思います。(会場拍手)

アンカー ありがとうございます。続きまして宮澤さんよろしく申し上げます。

宮澤さん 自分は宮澤 隆といまして三和のほうに住んでいます。

生まれも今も三和に住んでいるんですけども、普段は建築の現場の段取りをしている人間です。あとはほかにですね、サラリーマンとほかに、自分で手作りしたストーブとかをイベントとか朝市に行きましてですね、休みの日に行き、朝市を自分で出て2年半くらいから朝市たまに出てくるんですね。その中で露店されてる方々からお話を聞くことが、朝市が20年くらい先に、あ、10年先くらいになるともうないんじゃないかっていうふうに露店の方とか言われるんですね。

なので、僕は朝市は文化だと思ってるので、できるだけネットとかも使って友達がそういう小商いできるような人がいれば、そういうところに声かけて、ちょっと出店できないかねっていう話をしているんですね。

そういうことでやったときにですね、いきなり朝市を維持したいから税金使わせてくださいとは言わないですね当然。それはちょっと違うんじゃないかっていう感じになっちゃうんで、僕はそういうところをもって今回参加したんですけど。

参加した経緯は一昨日、3日くらい前までは僕そちらの聞く側で参加しようと思ったんですね。で、一昨日金曜日の日に今井さんからですね、ちょっと不吉なメールが来ました。(会場笑い) 6時半くらいからですね、今井さんからメール来たぞと、開いてみるとパネリスト足りないよということでちょっと一日考えて、仕事しながら悶々としながら、これ出たほうがいいのか、パネラーのほうに回るのかどうというのをちょっと悶々としながら葛藤しながらですね、結局これで考えることが俺の仕事かと思いながらですね、一日過ごしてまあ昨日、ではやりますということで今日来ています。

で、税金についてはお金を使うというところで、お金使うとき、税金使うときにモラルっていうのもくっついてくると思うんですけど、いきなり、税金というのは、自分の金じゃなくて人様の金だと思ってますよ。なんで、それをいきなり「刀を買いたいんで税金使わせてください」っていうのはちょっと違うと思います。

違う形で(チーン)お金を集めるような形をお願いしようと思って、何かいろんな意見が聞けるかなっていうか、自分も提案できるのかなという立場で来ています。ありがとうございます。

(会場拍手)

8 第一部

アンカー ありがとうございます。まずは第一声をパネリストのみなさんから発していただきました。

この、本日のフォーラムの副題には「税金」という言葉が実行委員長のほうから打ち出されておりまして、「税金の重さ」、「税金を使っていいのか」という副題がつけられております。

推進、賛成の意見の方は、税金を使ってもそれ以上のプラスがあるというご判断というか意見だと思うんですね。で、反対、もしくは疑問というか、中には心配という方もいらっしゃるんじゃないかと思いますが、税金を使って、それが効果があるのか？ そういった気持ちがあって、賛成と反対の間で揺れ動くんだと思うんです。

これは市民のみなさん誰しものが、線を真ん中に引いて、どっちかということでもなくて、意外と近かったりする場合もあると思うんですね。私はこの点は心配だけどこの点がクリアされれば、推進の方がこういうところをはっきりしてもらえれば賛成に回ってもいいよという方もいるかもしれませんし、いろんなグラデーションの中に気持ちっていうのがあると思います。

今日は対話をする場ですので、相手を倒してやろうということではなく（笑）、お互いに相手の気持ちをちょっと考えてみて、この人はこういうことを心配しているからこういうことをはっきりしてあげればこの点は解決するんじゃないか、落としどころはどこにあるんだろうか？ そういうところを考えていきながら、今日の貴重な場を進めていければと思います。

この後、第一部は2時15分まで、あと30分ほどですが、まずはパネリスト同士で質疑応答という時間を取らせていただきます。休憩の中で、みなさんの方から、みなさんにマイクを渡したい気持ちもあるんですが、一人ずつ思いをしゃべっているとそれだけでたいへんな時間になっちゃいますので、今回はメモという形にさせていただきましたので、休憩時間中に、みなさんからの質問なり、中には意見が入ると思いますが書いていただいて、それを同じような意見をまとめさせてもらって、こちらのほうでパネリストに投げかけるっていうスタイルを取らせていただきますのでよろしく願いいたします。

それでは、パネリストのみなさん同士で、反対の方は賛成の方に向けて、先ほどこういう発言があったけどこの点はどうなんですか？ とか、何かしらありましたら質疑応答の時間っていうことにしたいと思います。

まずはじゃあ、挙手ということで、何か発言したい方いましたら手を挙げていただけますでしょうか。はい、じゃあお願いします。

はい佐藤さん、よろしくお願いします。

佐藤さん ちょっとその、市民のみなさんが誤解をしてると思うんですよ。

というのはですね、上越市で3億2千万の予算を組んだら、それで終わりだと思っている。そうじゃないですね、その裏には必ず募金をして、全国で謙信公ファンが約500万人いるんですよ。上越市でたくさんの方がいます。それで、私が心配しているのは、全国の500万人の方がたくさんの方の寄附金をして何億になるかわかりませんが、上越市民が先日の新聞を見ましたら、寄附金が495万円、ふるさと納税が1767万円、2267万円集まっているんです。

これは、市民のみなさんがもう一回ですね、さきほど私が申しあげましたように、協力して次の時代に何を残すのかということを考えていただいて、寄附金についてですね真剣にもう一回考えていただきたいと思います。

私の町内ではそういう話はありませんけれども、私の友人のほうから、是非山鳥毛の寄附金をしたいんだけど、もうひとつ、する場所とか、する方法とか、具体的にはわからないということですので、私はもう一回ですね、市民のみなさんとともに、寄附金のやり方、それから金額、集める方法なども討論をしていただいて、上越市全体で、上越市で3億2千万の寄附金を組んだけども、これぐらいの3億2千万ぐらいでしたら市民のみなさまで協力はできるというようなことを一回議論をしていただいたらありがたいと思っております。以上です。

アンカー ありがとうございます。寄附金の額について、最新の数字が違ったような気がしたんですけど、ちょっと確認してもらっていいですか。

実行委員 小川さん（寄附金の額が書かれた新聞を持ってきた会場の参加者から読んでほしいと促されて）現在、寄附金の額が約1300万。（会場から、いや全然違うという声）

アンカー 行政の方、最新の数字をわかる方いらっしゃいますか？
見込み額も入っているんじゃないかなって感じですか？ 企業献金なども含めて。

村山秀幸市長 最新は、市民、または市外からいただいたのが2800万、それから見込みとして3200万という数字だったと思います。

アンカー そういう数字だったようです。ありがとうございます。これは、日々数字が変わって、ちょっと前の新聞でも既に違ってたりすることがあるかもしれません、一応確認させていただきました。ありがとうございます。

それでは、今佐藤さんからの話がありましたけど、ではそれに対して、反対の方から何かお話がある方いらっしゃいますか？

横山さん 今、金額の件でいろいろと情報が飛び交っていたと思うのですがけれども、税金を使って購入することがよいのかどうかとか、それから市民からの寄附のみで購入することが難しいのかとか、そういったことの議論がですね、あんまり情報として報道だけではなかなか伝わってない部分があるのかなという気がしますし、そういう情報が伝わることによって、市民の意識というか関心度も上がるのかなっていうふうに私は思っております。

太刀の購入について関心を寄せている団体さんがあるとすれば、情報発信に工夫というか、もっとその、こういうところが大事だよっていうことを、もう少し市民に伝えるところも必要だったのかなって感じがします。

私たちは、税金がどういうふうに使われるかというところには非常にやっぱり関心がありますので、そういうところの情報の伝え方っていうところがちょっと不足だったのかな、という気がする…思います。

石田さん 今ほどね、情報不足ってことが出たんで、まず私のほうからですね、今日2つの情報をお示ししたいと思います。それでですね、今日私、2つ情報をお示しすることをみなさん判断の材料にしてもらえればと思ってます。多分ですね、圧倒的な情報不足だと思います。

と、その前にですね、情報を言う前にすいません私まだね、今日の趣旨がわかってないんですけども、山鳥毛の購入に税金を使っていいのか？ ということは要するに、美術品を税金で買うのは不適切かっていうことなんではなかろうか、と捉えていいんですか。

アンカー それは、人それぞれの思いがあると思いますので。

石田さん それでね、じゃあぶっちゃけ話、私もともと大学で美術、絵を描いていまして、美術専攻でした。それでですね、だいたい絵を見ると一応いくらなのかわかります、実勢価格。

たとえば上越市、小林古径の絵があります。1600点あります。素描がいくら、価格っていうのはわかります。あれ全部市の税金で買ってきましたけど、大体4億から5億はしてます。小林古径、税金で買ってもう5億円近いんです。よろしいですかね？ で、小林古径の絵は税金で買ってよくて、謙信公の太刀は買っちゃいけないっていうその論拠、根拠をまず、お示ししていただきたいと思います。

そのことともうひとつ、私たちは県民税払っていますよね？ 県民税、新潟県のみなさん払っていると思うんですけども、新潟県もロダンの彫刻、9億円で買ってます。9億円ですよ？ さらにそのあと追加で1億円のロダンの彫刻を買って、計10億円のみなさんの県民税から払っていますけれども、それはいいんでしょうか？ それは反対されないんですかね。ロダンの彫刻がよくて、謙信公の刀が、しかも謙信公の形見、上越の形見になる刀がダメだというその論拠、根拠、境界線をですね、是非お示ししていただきたいと思います。(会場拍手)

アンカー ありがとうございます。少し、では交通整理をさせていただくとすると、まず最初の佐藤さんからのお話では、完全に税金だけで買うんじゃないんですよ。募金を、寄附金をしっかり募ってがんばりましょう、というお話をいただきました。

それに対して横山さんからは、そういう募金を集めるというのが伝わっていないんじゃないか？ という疑問が示されたっていうことだと思います。それぞれにね、賛成の方の気持ちもわかるし、反対の方の気持ち、反対っていうか心配かそれについてはね、気持ちもわかろうと思います。お互いにそういうのを汲みあって、じゃあどういうふうこれから持っていけばいいのか、というのを考えていけばいいんじゃないかと思います。

それから今、石田さんからお示しいただいたのは、税金で買っているところはたくさんあるし、事実、それが悪いことなのか？ っていう提議がなされたのだと思います。それがたとえば県のことが例に挙げられましたけど、人口20万人、年間予算が1000億円の上越市に対して、国宝という価値の高いものを持つことっていうことの意味もあろうかと思っています。その点について心配される方もいらっしゃるでしょうし、やはり謙信だ、上越市が買わないでどうするって方もいらっしゃると思うんですね。

そういったところの気持ちのぶつかり合いというか、その中でいい結論が出せればいいんじゃないかなと思います。いくつかそういった論点が出てきましたけれども、では、賛成の方も反対の方も、何か次の話でもいいですし、そこに対するお話でもいいですから、何かあればお願いします。

宮澤さん 今、何か買ったっていうのがあったじゃないですか。それって、初めて僕聞いたんですね。(石田さん「ですよねえ」)

ということは、今回はこういうのがちょっと盛り上がって、市民的に話が行き渡ってきたからこういうフォーラムが立ち上がってきたんだと思うんですよ。だから、普段はそういうのがわからなかったし、わからないまま生活している。特に若い人たちはそうだと思うんですよね。

僕ちなみに42歳ですけど、この中では一番若いということなんですけど(会場笑)。

若い人ってね、声かけたっていうか、ネット上では「今日パネリストやるから」ってやったんだけど、何人か、(来てくれて)ありがとうございます。(会場笑)でも、少ない。僕もたまにこういうのが好きで、聞きに行くんですわ。聞きにくるけど、年齢層高いです。本当に高い。

で、僕はモノを作っているから、60代とか70、80代のじいちゃんばあちゃん達って、僕好きなんですよ。モノを作っていた時代じゃないですか。ゼロとか1とか素材の段階からモノを作ってお金に換えてきた人達だから、僕はそういうところで通ずるところあるんですけど、モノを作って売ってるから。で、そういう人たちはモノを作れる。で、お金を作れる、お金に換えることができる人たちが、なんかいきなり税金とかってやっちゃってるのが、ちょっとどうかなと思う。わかりますか？ だから、もうどんどん身銭切って、貴金属やらなんでも売って、どんどんお金集めればいい。思いませんか？ 思いませんか？ 賛成の方。別に人様のお金使わなくていいですよって、僕は思うんです。だからそれが僕は「義」だって思いますけどね。思いませんか？(会場苦笑、その後拍手)

だから、若い人はぶっちゃけあんまり興味ないっていうか、なにやってんのかなぐらいの感じなのかなと思いますけども、僕はこういうところにももっと出てきてもらいたいですけど。若い人たちにも。で、朝市とか出て声かけていきますよ。若い人たちに来てくれって。なくなっちゃうから。ちょっと趣旨がちがってました？

アンカー いや大丈夫です。すごくいいお話だと思います。ありがとうございました。なんて言うかですね、今日の会の核心の一つはここに実はあって、賛成と反対の人は、敵同士では実はなくて、本来の敵は無関心の人なんです。(会場からうーんという納得するような声)

で、お互いに賛成の人と反対の人が健康的に意見を戦わせて、無関心な人にもっと考えてもらって、それこそ税金を使う重さですよ、そういった貴重な宝、3億2千万円を使っても、もっと買うべきだっていう結論になるかもしれないし、ならないかもしれない。それはもっと話し合うべきなんだと思いますし、やはり、無関心が一番やっかいな妖怪じゃないな、なんて言うんだろ(会場拍手)、すごい敵なんじゃないかなと思いました、はい。

ということで、またさらにですね、健康的に意見を出し合って、無関心の人にもね、こんなに熱心に考えている人たちがいるんだって知ってもらえるような機会になったらいいなと思います。

今、宮澤さんから提示されたのは若者代表っていうわけでもないんでしょうけど(会場笑)、今の若い方の率直な感覚としては、なんかよく情報が来なくて、それはね、若い人たちにも責任はあるのかもしれないけども、伝わってなくて、パッとこういった話が出てきたっていうイメージがある、っていうお話だと思うんですね。

石田さん、その辺についてはどうでしょうか？

石田さん あのですね、それで、もちろんおっしゃるとおりなんですね、情報不足。

それで、最初にちょっと言いましたけど、日本は議会制民主主義ですよ。イコール間接民主制なんです。で、市議員さんに、候補者に投票して、代表者が代わって、もちろん自分も投票しておりますが、そこで市議会で自分が推した候補の人が、そこで税金の使い方を決める。これが民主主義の精神ですので、それを違うってなっちゃうと民主主義の精神を反したことになると思うので、是非その候補者の方とですね、膝を交えて、是非情報交換をしていくのが、ひとつの道だなと私は思います。

それと、いいですか。もうひとつちょっと、じゃあ情報をひとつお話したいと思うんですが、実は私何者かって幼稚園やっております、全日本私立幼稚園連合会の政策委員をやっております。この政策委員、全国に10人しかおりません。で、私その政策副委員長でですね、何をやっているかといいますと、国に対して是々非々で言うセクションです。文科、厚労の職員と膝突き合わせてやってきたんですが、直近ですと「子ども・子育て支援新制度」27年度、一昨年から導入しましたけれども、国が今、中央政府が何が一番、一丁目一番の課題かと言ったらですねズバリ人口減少問題です。特に、これから、日本の人口、もうどんどんどんどん目減りします。

昨年一年間で31万人減りました。沖縄県那覇市が丸々消えた勘定です。で、これから毎年30万40万と日本の人口減っていきますから、誤解しちゃいけないのは、全国平均ではなくて、東京はもっと過密になって、地方はもっと疲弊するんです。おわかりでしょうかね？ 2025年問題、2030年、2040年問題って聞いたことあると思うんですが、2025年問題、団塊の世代が全部後期高齢者になります。2030年については、日本人3人に一人が65歳以上になります。はたして社会保障どうするんでしょうか、っていうことで、2040年には全国1800の自治体の896、約半分は消滅するという数字が出ております。

じゃあ上越市は2040年どうか、もう出てます人口。かなりやばいです何もしなければ。人口は今19万7000人ですけども、2040年見ましたけども、14万人台まで下がります。そうすると、じゃあ読みますけれども、今、上越市の市県民税一人当たり平均額14万8千円です。わかりますか、14万8千円。これに付帯する所得割税額9万7千円ですので、一人で24万5千円です。で、1万人減るといくら税収が減りますか？ じゃあ、4万人減ると、115億円減ります。5万人減ると122億円減ります。115億円、新当初予算でましたけれども上越市、教育費がちょうど115億円です。これが丸々すっぽりなくなります。よろしいでしょうかね？ 何もしなければです。で、私たちは国に対してですね、そこをですねこの新制度について問題を提起してですね、これはその地域区分、格差なんですね。今、いろいろ言ってますけども、とにかく東京と地方の格差がどんどんどんどん拡大して、実は国はですね、地域区分という序列を作ってます。100分の20、(チーン) そこで私はだいたい言ってきたんですよ…、じゃあ、ちょっと後ほどまた。(熱が入ってきたところに時間が来てしまって会場に笑)

上越市の人口減少をどうやって歯止めをかけるんでしょうか？ っていうところで次に続きます。

アンカー ありがとうございます。人口減少についてはですね、僕は安塚区に住んでまして、今すごくアンカーじゃなければ言いたいことが山ほどあるんです。(笑)我慢してます。誰か代わりに(笑)今、人口減少だからこそ買うべきっていう？ (話は)これからなんですね。第一部はあと13分

ほどですので、ちょっとこのあと時間割を考えながら手短にお願いします。では石田さんもう一度。

石田さん それでですね、じゃあ人口が減ってる、で貴重なですね、税金ですよ？ じゃあどういうふうを増やしていくのが、これ今回の「上越PRIDE」、全部書いてます。

上越、製造業なんてこれもう全部目減りしてます。じゃどうしたらいいんだ、結論から言いますと、観光の基幹産業化。もうこれ既にやっています。九州、関西、岐阜、長野。上越はそれができる全国で唯一の場所です。こんな春日山、高田、福島城3つある城は、全国ここだけです。ですので、この歴史的資産をですね、やっぱり活かさない手はないので、逆に言いますと、さっき言ったように、14万人ぐらいに減少しましてですよ、115億円減るとですね、今上越市、行政サービス、教育、医療、福祉、子育て、ありますよね？ これ維持できますでしょうか？ できませんよね？

そうすると税金まるまる失くすことになるんですよ。人が減ると地方はもう、消滅危機なんです。

で、実を言うと、平成18年から23年まで、一番危ない時期でした、この5年間。で、今の現村山市長がですね、不断の行財政改革をして、なんと4倍のですね、30億から130億にまで伸ばしました。これ評価すべきだと思いますが、逆に言うと夕張になりそうだったんですよ、上越市は。で、私の推測ですけど、ここで未来への投資をどうしたらいいか、多分真剣に考えるべきだと思います。そこで、観光の基幹産業化ってことで、減収した部分をどこでじゃあ試算するかっていったら、これは、謙信公ですよ。太刀って、なんでしたら国宝って買えません、基本的に。金の糸がたまたま垂れてきたんで、これを切ってもいいんですよ。切ったら未来永劫国宝を買えるチャンスは一切来ません。そうすると、どんどんどん減少するだけで、じゃあ、レバレッジ効果っていいですけど、少ない投資で3億が30億300億ってなったらみなさんいかがでしょうか？ 納得されますか？ それぐらいの価値があります。で、私そのあと情報2にお話ししたいと、一応ここで終わりにしておきます。(会場拍手)

アンカー ありがとうございます。そちら(反対)のほうでしゃべりたい方いらっしゃいますか。

横山さん 私がちょっと最初に聞いたところは、観光のために購入するというのが真の目的ではなくて、上越市のその歴史の価値を取得するっていう、謙信が使っていたというその歴史をね、上越にもう一回っていうところで購入するっていう、そこはすごく意義があるなというふうには思っているんです。ただ、それをどういうふうを活用するとかのひとつの中に観光資源として活用していくっていうところがなんかちょっと心配のひとつではある。本当にはたして観光資源として活用でき得るのかっていうところが、今お話を伺ったところでは、資源にはしてほしいけれども、本当に資源にはできるの？ っていうのは、ちょっと心配の種かなというふうに今ちょっと聞いて思いました。で、やはり市民の間には、ほかに優先する事項があって、子育てとか、高齢者とか、そういうところにもちゃんと使い道として税金を使ってほしいって思いを持っている市民がたくさんいるので、やっぱりそういう人たちが理解してもらえるような、何かきちんとした情報なり、意見なりを述べていくっていうのも大事なのかなっていうふうに思います。

アンカー はい、ありがとうございます。(会場一部から拍手) じゃあ佐藤さん。

佐藤さん はい。私は。博物館に刀が展示される。79センチ、拵えが110.2センチ。ここで、

私考えたんですよ。自分で一銭も寄附をしないで税金の、買って博物館で見たら、あ、これは税金で買ったんだから、ということで終わっちゃいます。私が1000円を寄附したら、この刀が、鼻先1000円分は（会場笑）おれが寄附したんだって。（会場拍手）これで私の友達と、かあちゃんと娘に先々までも、佐藤さんは1000円を寄附して、「この刀を見ろ」と（言えると）、そういうことで考えています。

先ほど若い人もですね、まさしくですね、どうしたらいいかわからない。老人の方もですね、市長さんに頼んで、3億円出すならお風呂の券をタダにしてくれとか、いろいろな意見があるんですけども、そうじゃないよと。あなた方が博物館へ（刀が）展示されて、少ない金額でも寄附された自分の誇りになるよ。家族の末々まで自慢にできますよ。私は一生懸命節約して、1000円を寄附したいと思います。（会場笑いと拍手）

アンカー 熱い思いをありがとうございました。

またさらにちょっと話をまとめさせていただくと、石田さんからは、人口減少の中で、ここで勝負をかけるべきだというような、そういったような発想から出てるっていうお考えだと思うんですね。

それに対して、横山さんからは、まだ心配な点が大きいっていうのが、反対というかですね、そういう点が大きいんじゃないかなと思います。9月の市議会の中で山鳥毛の話が議論されたのは、一応おさらいしてみたんですが、観光振興にこの刀を使うという話の中では、具体的な何々をするっていうところまでは、話行行ってなかったように感じました。もちろんそういう状況がありながら、そちらを（石田さんの提言書）を作られたと思うんですが、今度はこちらの議論が俎上に上がって、さらに、やっぱり心配だったけどこれに使うべきだっていうふうになる方もいらっしゃるかもしれませんが、いや、やっぱり心配だ、ほかのに使ったほうがいいよっていう意見もあろうかな、まあ、そういう段階にお話が進んできたんじゃないかと思います。

では、あと第一部は6分ほどなんですが、ちょっと短めにしかお話できないかもしれませんが、発言をあまりされていない方、じゃあ、永野さんお願いします。

永野さん その観光地（としての活用）でそれが懸念されている話がちょっと出ましたけども、みなさんの中に多分思いがあるかと思うんですが、この上越に上杉謙信のゆかりのものが何かあるのかなって思ったときに、まあ、銅像が一つあるかなって（会場笑い）、春日山城の跡地があるくらいで、私も米沢の観光に行って、博物館と上杉神社も見てきましたけども、「ああ、ここにみんなあるんだな」って、上杉と謙信のものはみんなここにあるんだ、あまり勉強不足だったんですけど、何で上越にないんだろうってそのとき思って、ああなるほどなっていうことが歴史上でわかるわけですけども、そういった意味では、私たちこの上越に生きてて育ってきた人間ですので、やっぱり謙信を大好きですし、全国にもやっぱり謙信をファンに思ってる、また生きてる中でのよりどころに思っている方もたくさんいらっしゃると思います。

さきほど「天地人」の話がちょっと出たんで、私もこれ言いたかったんですけども、私も仕事柄、そういったところで、直江津の屋台村で、生まれて初めてですね、この上越で観光バスが平日また土日関係なく30台以上も毎日のように来た。これは上越始まって以来じゃないですかね？ これはこれからの話になるかと思うんですが、これを私見てびっくりしました。上越でも人を呼べるんだと。天地人という大きな大きな大河ドラマということがありましたけども、だけど、それだけ僕

は謙信ファンっていうのが全国にいるんだって思います。

そういうところから行くと、いろんな、百万人の観桜会とか、いろんな資源を通して上越に来る、誘致をする、観光課が一生懸命やられていますけども、最後にはおいしいもの、お酒、米、たくさん食べていただいて、最後の最後に、「せっかく上越来たんなら、謙信の太刀を見て帰ろうぜ」という、その最後ですね、やっぱり県外から来た、また県内の方もそうですけれども、「ああ、ここにねえ、上越にあると収まるねえ」という、そういった気持ちでいたところに、僕はロマンの話をしてみたいなど。夢の話をしてみたいなど。昔戦国時代がこういうふうにあってねっていう、親子で話ができるんじゃないかと。また子供にこういうことを残していかないといけないんじゃないかと。単なる戦国時代の英雄というだけじゃなくて、やっぱり彼の精神がやっぱり脈々打っているのがこの新潟上越ではないのかなって。それをまた後世に子どもたちに受け継いでいっていただければ、そのための僕は、目を見て、精神も大事ですけど、目を見てモノがあるということに、話が展開するんじゃないかって。

先日、老舗のお菓子屋さんとお話する機会があって、「これを見てお酒飲めたら最高だよおまん」と（会場笑い）、いろんな話ができるんじゃないかと。謙信と対話ができるんじゃないかという話を言ってくださった方がいて「そうだねえ、そうだねえ、俺もこの太刀の前でお酒飲めたら本望かもしれないな」という話を、余談で申し訳ございませんが、そういったお気持ちっていうのは、みなさんの中にひとつはあるんじゃないかなあと。ただ、税金の話はこれからの議論なんです。それはやっぱり、税金を全部使うわけでもないし、やっぱり寄附で賄えられる部分は（チーン）賄っていただきたいなあとと思います。また新潟県人、またそういったところのスタッフなり応援団がほぼ全国にいると思うので、そういった方々からも応援してもらったりしながら進めてはどうでしょうか？（会場拍手）

アンカー じゃああとお一方くらいなんですけど、河野さんどうですか。発言がまだ少ないようで。

河野さん まだ本当、若い人たちに、この太刀購入について、まだよくわかってない人が大勢いると思うんですよ。その中で、税金を使うっていうのはやっぱり、いかがなのかなあって思うんで、是非、みなさんに知れ渡るように宣伝していただけたらなあとと思います。はい。以上です。（会場拍手）

アンカー はい、それではですね、だいぶ第一部の（終了）時間が近づいてまいりましたので、ここでちょっとまとめさせていただきますが、このあと休憩をとりまして、ご来場のみなさんから、小さいメモ用紙、それを回収させていただいて、それをこちらでまとめさせていただいて、そこからパネリストさんに投げたいこうかと思いますが。

既に出た論点がいくつかありますが、まだ違う論点もあるかと思っています。あの、たくさん出た場合には、出ていない論点のほうから先にやらせていただきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。それではですね、わりと時間も近づきましたので、ここで司会の瀧田さんにバトンタッチしたいと思います。

司会 はい、それではここで15分間の休憩に入りたいと思います。

山鳥毛の購入についてご質問があるという方は、今ほど説明があったと思いますが、受付時にお渡ししました質問用紙に是非ご記入の上、休憩終了までに受付にお渡しください。または実行委員

が回収に回りますので、その際にお渡しください。

それでは2時半まで休憩とさせていただきます。よろしくお願いします。

9 第二部

司会 それでは、これより [山鳥毛フォーラム] 第二部を始めます。

アンカーの中村さん、後半もよろしくお願いいたします。

アンカー はい、よろしくお願いします。

あの、大変たくさん集まっていたかましてたくさん文字書いていただいて、まだすいません、全部読めてないので読みながら進めますので、頑張ります。

えー、それですね、後半は3時20分まで、がこの時間帯になりますので、いろいろね、全部さばききれないかもしれませんができるだけ努力しますのでご協力をよろしくお願いします。

パネリストのみなさんも、あのまあ喋るプロではみなさんないでしょうから、あの、大変だと思いますがコンパクトに（会場笑い）まとめていただいてご協力をよろしくお願いいたしますとおもいます。ではですね、読めたものから、ちょっとこれさっきあんまり出てこなかったなあとしたものから進めていきたいと思います。えっとですね、まずちょっと単刀直入なものからいきたいと思います。

●質問 その1

アンカー 「反対のみなさんに質問ですが、どうしたら賛成するんですか」（会場笑）

というのがきました。

これあの、すいません、本質を突いた議論なんですよ。あの要するに落としどころがどこかにないと話がまとまらないので、非常にこれ、一行で書いてくださったので僕の目に留まりました。素晴らしい。ということでいかがでしょうか。

横山さん じゃあ、はい（横山さんが宮澤さんに促す）

宮澤さん 今回、刀を購入するということで、いきなり税金使いますみたいな話が出てきたんですよ、ですよ、違います？ で、いきなり税金使うっていうのでなくて、そこで多分、反対が生まれたと思うんですね。で、そこで3億円っていう、お金の中で、1億円とか2億円をまず貯める、寄附で貯めておいてから、じゃあちょっともう限界なんで、税金を使わせてくださいっていう形だったら納得はいくと思うんですね。僕はね。

で、そのお金を、うーん、集め方っていうのもいろいろあると思うんですけど、単純にその入口っていうかスタートがなんか失敗しているような感じがします。

で、それをやらないと、その刀がどっかに売られちゃう、っていうことを考えられると思うんですけど、でなんかブローカーが入っちゃって将来5年後お金貯まったんだけど、もう3億円じゃな

くて5億円くらいになってんだよとかっていう話になるかもしれないんだけど、入口がちょっとあれかなっていう、だから僕は、賛成というか、やりかたによっては賛成なんですね。

いきなり税金っていうのは、ちょっとない。

(会場から) はい、すいません。今の意見で…

アンカー あ、すいません。それをやり始めると時間がかかりますので申し訳ありません。次の機会があれば、出てきていただくといいかもしれません。すいません。(会場笑い)

横山さん 当初は市民の寄附でという話で進んでいたのかもしれないんですけども、そこだけでは難しいので、税金を使って購入するという、結果はね、後先ということになったように私は感じてるんですけども、そういった経緯がどうも市民に正確に伝わっていないということが、私がこう反対をする理由のひとつです。

なので、そういった経緯をですね、きちんと私たちが納得できるように、市民のみなさまにわかるような納得のしかたがあれば、私ももちろん賛成だと思います。で、もうひとつは3億円という数字だけではなくて、それ以降、維持管理費にも相当な額が今後使われていくってことになりますよね。そうした場合の維持管理費も含めた中のその税金の使い方ってところも今後の税金の使い方としての議論の一部になってくると思うので、そういう議論についてもやっぱりもっといろんな人たちが、議論に関わるべきじゃないかというところで、私が反対する理由なので、そういうところがきちっとひとつひとつクリアできれば、賛成のほうに回ると思います。

基本的には歴史的な価値を買うということに対しては私は反対ではないです。もちろん謙信が使ったであろう歴史的な宝物というところに関しては私は基本的には反対をしていません。

ただその、経緯についてや、市民が納得いくようでない、誤解されている部分がある、そこがちょっと私自身が心配をしていたり納得がいていない部分なので、クリアできれば賛成に回りたいと思います。

アンカー はい、ありがとうございます。河野さん。

河野さん 私も、ちょっと経緯がなんか最初に保存会の方とか「義の心」の会の方に聞いて、この方たちも欲しがるのはもう目に見えてますわね。(笑) それから収集市民会議立ち上げてってなってますが、その間にちょっと市民に問う場があってもよかったんじゃないかなと私は思ってます。

それとまた、横山さんと被るんですが、維持管理費ですよ。これをどうするか。これもちょっと議論したほうがいいんじゃないかなと思います。以上です、はい。

アンカー はい、ありがとうございました。

今ほどね、話が出てきましたが、この最初の手続きといたしますか、この話が出てきたときの経緯について、よくわからないうちになんか買うことに決まってるように思った市民も確かに現実には多く存在するような、のが感じるがありました。それがいただいた紙の中で出てきました言葉の中で「水面下で進んだんじゃないか」っていうことを書いていただいた方、いらっしゃいました。このあたりについて、では賛成のみなさんから意見をお願いしてもよろしいでしょうか。

石田さん あの、まったくそういうことではなくてですね、こちらにも意見を求められたらいいですねっていう話させていただきました。

ですので、またちょっと戻りますけども、お金の記録、ちょっと整理させていただきたいんですよ。税金をじゃあ何に使うかって言ったら、この山鳥毛に上がってきた経費はどこに行くかって言ったら、医療、介護、教育、子育てに行きます。

ですので、上がってきたもの、税金はみなさんの市民の生活に行くってということなんですね。お金の品目をですね、今日食べる飲食費と未来にかける投資、たとえば学資保険とは分けますよね？

みなさん。今日食べるのと、学資保険を一緒くたにはしませんよね？ 市も一緒です。今日食べるのと、未来への投資、これお金を分けたとみていただけると思いますし、一番わかりやすいのは米百俵の精神。これ、わかりやすいと思うんですが、小林寅三郎は今、この百俵を食べてしまえばなくなるけども、これを未来に投資すれば、投資をすれば、長岡藩は永遠に繁栄するだろうと。

で、私たち上越市によすが、アイデンティティ、「義」だと思ってます。13町（区）全て含めて。で、自分は食べなくても孫や子に食べたいというのが上越人じゃないでしょうかね？ これが「投資」なんです。ですので、お金はその、山鳥毛って趣味趣向で言ってるんじゃないじゃなくて、山鳥毛とパックで、上越人、連綿と何倍もの投資がきたらこれ市民の暮らしに反映されるってことですので、一部の人に行くお金ではないってことだけ、ちょっとご理解いただけたらって思います。

●質問 その2

アンカー ありがとうございます。それではですね、ちょっとその経緯の中で、手続き論的な話の中でこういうのがありました。

「うちの町内では各家庭に寄附金を集める封筒が配られました。集まったら購入だと思っていたのに、こんな方法で集めるっていうのは購入ありきなのかと驚きました」というのをいただいております。（会場少々どよめく）

まあ、どこかどうかというのは置いておいて、このような方法について、まあたとえばですね、市民活動に9月議会で補正予算が出たと思うんですが、その市民活動団体からの発信というのは十分かどうかという論点もあろうかと思うんですが、その点いかがでしょうか？

佐藤さん 募金の方法ですけども、市民団体としましては、私の感じでは、目覚めておりません。していいのか悪いのか、はっきりわからない。そんな状況になっています。私は町内でも回覧回してもらってまして、ただし、謙信公のファンとしましてはですね、今年の観桜会と蓮まつりの時に、積極的にボランティアをしたいんですけども、これから3、4、5、6、7（月）と、1000円ずつ貯めても5000円貯まるんだって。そういうことを考えている人がたくさんいらっしゃいます。それで、寄附、寄附言ってるけれども、いつまでするのか、今年いっぱいするのか、桜祭りまでするのか、その辺が全然見えてこないんです。その辺をですね、ちょっと何かで更新といいますか、今年じゃなくて、3億貯まるまでやるのかですね、来年、再来年もやるのかですね、その辺をちょっと教えていただきたいと思います。

アンカー ありがとうございます。そこはあれですかね？ 議会の？（会場の男性が挙手して話そうとする）いや、あのすいません。今日は発言できないようにしてあるのですいません。

（男性「ちょっと、最後でいいですから」と話をしようとする）

いや、そういうのを許しちゃうとキリがないので、今日は我慢してください。申し訳ありません。それぞれのブログで発信するなり、自分たちで集会を開くなり、それぞれ努力しましょう！ 今日のはね、あの主催者の意識がありますので、その意向に沿ってやりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

それではですね、じゃあちょっとまた、その辺りになってくると市議会での議論に託すしかなかりょうかと。僕らが話してもね、しょうがない話かもしれないんで。そこはまたちょっとそこに期待することよろしいでしょうか？

河野さん すいません、それに、寄附に対して付随して、町内によっては強制的に寄附をさせられたっていうところがあったそうです。それはちょっとどうかなーっと思うんですけども。（会場ざわめく「どこですか？それは」という声が方々から上がり騒然となる）

アンカー はい、そこについてはですね、ここで発表するのもなんですから、しかるべきところに情報を上げるなら上げていただいて、しっかり対処していただくべきかと…

（ここで会場から「実行委員長に回答を求めます。どこでそういう話があったのですか？」という声が挙がる）

いや、それは実行委員長経由で上がった話ではないので、河野さんからの情報ですので、（少々ざわつく）健康的に行きましょう！ ね。たとえば熱意がありすぎて、勇み足をしちゃう方もいるかもしれませんが、そういうところはね、お互いに、最初石田さんからも、その何か誰か名前出しちゃったって話があったじゃないですか。ああいうのも、やっぱり熱意による勇み足かもしれないですよ。それをお互いに叩き潰しあってたら前に進みませんので、それは問題はあるってことで認識しながら、しかるべき対処の仕方をしかるべき方法でやるしかないんじゃないかと思います。ここでケンカしていてもしょうがないですしね。大人になって、頑張りましょう！（一部から拍手）

いやあすいません、結構僕、いっぱいいっぱい頑張っていますから。（会場笑い）

●質問 その3

アンカー はい、続きましてちょっとさらに根源的なテーマに移りますが、こういうのがありました。「上杉謙信の義の心とは、どういった意味が込められていますか？」

賛成の方にちょっと説明をお願いします。義の心とは何ぞやっていう話でございます。いかがでしょう。

石田さん はい、それでは「『義の心』の会」が多分適任だと思うんですけども、是非うちの会に来てください。（会場爆笑）

来週3月4日、林泉寺で座禅いたしますので、座禅はすっきりします。毎月例会をしまして、

3カ月に一回林泉寺でやっておりまして、「義」とは何か。これ本当に深くて広くて難しい問題です。義っていうのはたとえば嘘をつかない、卑怯なことをしない、困っている人を助ける、基本的なものがありますが、初心者編からエキスパート、謙信公は最後「不識（ふしき）」っていうところまで行きました。これ義の最終境地なんですけど、ここまでいくのは相当なアレです。

やっぱり当たり前のことを当たり前にする。困っていたら助ける。弱きものを助ける。これが義の心だと思っておりますし、この雪深い上越だからこそですね、上越一円に義の心が、全国でも珍しく育まれたこれはあの、フリードリッヒ・ラッツェルっていう人で、ドイツの地理学者が言ってますけど、環境決定論っていうことで言ってます。環境が人に与える影響はものすごく一番大きいと。で、ここ。沖縄でも紡げなかった。雪の深い上越だからこそ、自助互助の精神が紡げた。高田の雁木通り見てくださいね、自分の土地を多くの人のためにやりますよねえ？ だからそういう13町区全て含めて義というのはありますし、一文字で「我を美しく」って書きます、「義」っていうのは。美しいってことと我って二つ入っておりますけれども、「我美しく」とはさて、どういう生き方でしょうか？ ね。

で、それぞれみな百人百通りの義がありますので、みなさん義を探求してください。ということで、それを勉強するのが私「『義の心』の会」でございますので、来る者拒まず、どんな方でもどうぞいらっしゃってください。そして一緒に勉強していきましょう。以上です。（会場拍手）

●質問 その4

アンカー 続きまして、こういうのが来ております。

「購入後の管理維持費も税金でしょうか？ その費用は概算はどのくらいですか？ 国宝」（級と書いてありますけど、国宝ですよ、ね、「…の管理の建物展示施設をどのように考えていますか？」）というのが来ております。

賛成のパネリストさんへということなんですけど。あの、答え、られるかしら？（会場からうーんという声）

石田さん 少しだけですが。私、行政ではないんですけど、一応先ほど美術に造詣が深いってことでお答えできることもあると思うんですけども、まず、ほかの屏風ですとか洋画に比べて、比較的維持管理しやすいです。ただ湿度に相当こだわります。今富山県ですね、刀剣美術館ができて（注 2016年6月にオープンした「森記念秋水美術館」）、そこに実は本阿弥家、昔よくあの「折り紙付き」って聞いたことあると思うんですけど、これですね、日本刀の鑑定書の元祖のみなさま方、本阿弥家って言います。この本阿弥家の末裔の方が今富山県にいらっしゃいます。

これ本当にラッキーなんですけど、刀剣美術館ができたことで、富山県に移住されたということで、交通費程度でこちらに来ていただいて、維持管理、ご指導できるということは、私はちょっとお聞きしておりますので、ほかの美術品よりも、比較的ですね、日本刀については維持管理がしやすい。ただ国宝ですので、60日ルールをはじめ、さまざまですね、カビが付かないとか、細心の注意を払わなきゃいけないということは聞いております。

アンカー はい、ありがとうございました。

今、60日ルールっていう話が出ましたけども、ご存じない方がいらっしゃるかもしれませんが、

国宝の山鳥毛は扱いがデリケートなので、人前に出す展示が、一年間のうちに60日しかできないというのが、あれは何庁だったかな？（石田さん「文化庁ですね」）文化庁でしたっけ。文化庁の指針で決まっております、そういう情報もあります。

●質問 その5、6

アンカー ではですね、続きまして、反対のみなさんへの質問。ちょっと二つほどまとめて質問させていただきますので、答えやすいほうをお答えいただきたいと思います。

まずひとつは、「**上越市の観光資源について、謙信公、春日山の順位、どのくらいで考えていらっしゃいますか？**」

ちょっと面白い質問、（会場笑い）上越はやっぱり謙信が一番だろうという意見もあるかと思えますし、いやいやそうじゃないよっていう意見もあるかもしれません。これがひとつ質問。

続きまして「**税金で買うべきではないという考えの場合は、一銭たりとも許せないとするものか？それともある程度ならよしとするか？ その辺はどう考えるか**」

たとえば1億円集まったならよいかとか、2億円集まったならよいかとか、要するに落としどころですね、妥協点。そういうのは考えていらっしゃいますか？ という質問でございます。

これは「反対派」という団体があって意見が一致しているわけじゃないと思えますけど（会場笑い）、個人的な意見で結構だと思いますので、答えていただければと思います。では、どちらから。では河野さん。

河野さん 私の考えでは、全部寄附でやっていただければと思います。反対意見もあると思うんで、税金を使うというのは、いかがなものかなと思います。で、順位についてですが、これは上越市の順位ってことですかね？

アンカー おそらく、これ書いた人じゃないのであれなんですけど、上越市の中の観光資源として、どれを優先順位とするべきかっていう論点だと思います。

河野さん うーん。まあ、私の考えでは高田城、春日山城、ですかね？（悩む）そうです、はい。以上です。

横山さん 私はですね、募金で買えるまでは、市民活動として頑張っていたきたいなというふうに思っております。で、それをやることによって、市民力を上げる一助にもなるのかなって思いますので、金額がどうっていうよりはむしろある程度期限をつけるとか、ある程度みんなで相談したイメージというか、そこに近づくまでは募金でやっていただいて、最終的には、先ほども維持費がかかるという話もありましたので、そういったところとか、もっとこう、大きなくりの中で、税金でやれるっていうところが市民に理解されれば、私はそれでよしだっというふうに思っております。

あと観光資源についてなんですけど、観光資源で1番2番ということは、私はありえないと思っております。っていうのは、13区、上越市内にはですね、たくさんの地域資源があります。

13区それぞれにも素晴らしい資源があります。これがひとつというのは、その方その方の思いかなというふうに思っておりますので、私は1番というのは、特に決めてはおりません。個々の思いにお任せしたいし、私も個々の思いでいきたいと思っております。(会場拍手)

宮澤さん 言われて今考えたのが、何億まで、どのくらいまで集まったらという話ですけど、僕的には3分の2ですかね。だから、3億だったら2億とかを集めて、1億円税金とかだったらいいのかなって、ちょっと思いますけど。あの、うーん、直感的にですけど。

で、観光資源については、高田の桜、高田城、で、春日山かなと思ったり。でも僕は朝市出てるから朝市をプッシュしたいんですけど(会場笑い)。町家とか、ね、ああいうところは、電車で来れてすぐ観れるっていうか、状態のところはとてもいいかなって思うんですけど。そんな感じですね。3番目くらいです。(アンカー「3番目?」)3番目くらいでいいんじゃないんですか?

アンカー 論点がいろいろ出てきておりますが、先ほど賛成の方に、「義の心」とはなんですか?っていうのがあったんですが、全員の方に聞いてくれっていうのももうひとつあったんで、反対の方の中で、義の心について思うところがあれば、(パネリスト笑い)何かありますか?

宮澤さん 普段は、自分に「義の心」があるとかっていう思いはないですけど、普段、だってそんな思って生活してません。ただ、いいことやったらいいって思いますけど、だから単純に、将来、自分今40ですけども、40っていうとだいたい先が見えるじゃないですか。

人生80歳とかって考えると、もう折り返して来てるから、だいたいこのあとどうなっていくかってわかるし、そうすると、自分にも子供がいるから、子供のためにもなんか残さんきゃいけないみたいことやってるけど、なんかそういう…なんの話してましたっけ?(笑) あ、義の心。で、そういうので、地域に染み渡るような活動は、個人的にはやっていきたい。さあ、そこで別に税金とかお願いしますっていうのはない、っていうのが逆に義の心なんですけど。今、出ました自分の中で。

アンカー ありがとうございます。いろんなね…(ここで横山さんと佐藤さんが同時に手を挙げて、佐藤さんがマイクを回す)

佐藤さん 義の心とはってことで、何回か同じ質問を受けています。

私は、上越市の市民の中に義の心がたくさん生かされています。みなさんが、気づかれていないんです。謙信公が春日山の頂の上から雪の中でぐっと睨んでいます。それでよく、義の心は何ですかと言ったらですね。私は「福祉の心」。それから、市民団体が一生懸命市民のために頑張りますね。

ある福祉団体へ行きましたら、10年間もタオルを折っている団体がありました。それは、自分が義の心とは気づいていませんけども、上越市というのはですね、そういう場所なんです。

謙信公が春日山からぐっと睨んでおりますので、やはり、福祉の関係。ならびに雁木もそうですよね。みんなで大雪の時に助け合って雁木を歩こうとか。市民団体でもたくさんの方が福祉で頑張ってるらしいですし、春日山の方は、私は何年前に観光ボランティアで春日山へ案内したときもですね、朝早くから春日山をお掃除しています。高田の蓮まつりの時も、まず、6時からですね、高田公園の蓮まつりの公園をお掃除しています。

それは私は全て、義の心だと思います。難しいことでは、私はないと思っております。その義

の心が上越人に宿っているということを私は確信しております。以上です。(会場拍手)

●質問 その7

アンカー それではですね、賛成の方への質問でこういうのが来ております。

「今までも、上越市はアピールが下手。で、宝の持ち腐れになっていることが多い。どうアピールしていくのか？ 観光プランを具体的に示してほしい。ブームなど一過性。宝の持ち腐れにしないように」というようなお話が来ておりますが、石田さん、さきほどの話の続きにちょうどなりますかね？

石田さん まさにですね、あの私がこの今回提言書に書かせていただいた、そこに全部書いてあります。それですいません、これお求めになりたい方いらっしゃるんですけど、ちょっと今、市内の書店にですね、置いてもらおうかなという予定しておりますが、やはりですね、今まで上越市の観光、まず総括検証して何が成功して何がうまくいかなかったのか、これきちっと総括すべきだと思うんですよね。

その中で、やはり一過性でなくて、どうしたら継続して歴史資産を呼び込んでいくかっていうことをですね、きちんとやって検証していくべきだろうと思います。で、私たち提言書の中に書いたのはですね、まず、上越市のよすが、アイデンティティって何かってことをまず掘り下げて考えて、これを実はこれ提言書で一番言いたいのは教育なんですよね。

私たち教育を、是非地元の小中学校、幼稚園かでやっていく。子供たちにこの我が町を愛し、愛着を持って誇りを持つという、まずここから入っていかないと、自分たちの町を誇りに思わなくてどうして外国人の方に見学に誇りをもって言えますか？ まずここからしっかり観光振興の根を育てていかなければいけないと思っております。

で、私はですね、上越の宝はですね、「目に見えない義」だって思ってますし、今回、先ほどお話しありましたけれども、山鳥毛、モノが来ることで圧倒的な存在感で義を感じさせてくれる。

でも、本当の宝は、今おっしゃったようにですね、弱者を排除しない町なんです、上越は。高田瞽女さん。室町時代から400年以上続いているのは全国でここだけです。で、謙信公が当時、応化橋（おうげのはし）でですね、盲目の者と身体に障害がある者からは絶対橋賃を取っちゃならんと厳命した記録が残ってます。

あと榊原藩がですね、会津藩の戊辰戦争で敗れた1742人をですね、何の補助もなく面倒見ています。私はですね、この義の心こそが宝だよってことを、後世の子供たちに伝えるのが我々大人の責務だって思っておりますので、観光振興っていうのはこれ教育なくして絶対できないと思っております。ですので、みなさん是非未来志向でですね、目の前の時間軸じゃなくて、未来の時間軸で考えていただきたいなっていうふうに切に思っております。以上です。(会場拍手)

●質問 その8、9、10

アンカー ありがとうございます。ではですね、さらにまた賛成の方への質問でいくつか来ておりますので、ちょっと読みますね。

「市の公債残高約800億円…」これは（ここで市長に尋ねる）

村山秀幸市長 普通分がですね。起債の全額ではありません。860億だと思います、通常分が。

アンカー 「…があり、地域の温浴施設など休止などが進められるほど、財政の切り詰めが進んでいます。この中で3億2千万円のお金を使うことが良いのか、今の持ち主がなぜ売り出した。なぜなのか。この話に上越市は乗せられているのではないか？」（会場笑い）という疑問をいただいております。

それからですね、「子育て中の者です」といただいております、「太刀に全く興味がありません。観光都市としてのパワーもないのに、観光、太刀に税金を投入しても、働く場所が増えなくては、若い人を呼び戻すことはできません。なので、この上越市において観光のためとか市民の宝にとという言葉で、税金を使うことを肯定するような市の在り方に憤りを感じています。（会場どよめく）若い人が働ける場所に全力で税金を使ってほしいです。太刀への税金投入はその次だと思うのですがいかがでしょうか。」

つまり、寄附だけで、税金を投入しないで寄附だけで太刀は買っていただきたいという意見をいただきました。

それからですね、「既に購入は決定したのか？」

先ほどの手続き論にも関係することだと思いますが、「誰にその権限があるのかあったのか、市民の声を聞かずに決定していいのか」という強い言葉でもいただいております。「そういう段階で予算に計上せず、白紙に戻して考えるべき」というような意見をいただきました。これはそれぞれの立場の中で発せられた思いだと思いますし、賛成の方推進の方はそれを乗り越えて、さらにそれでも進めるんだっていう気持ちがあろうと思いますが、何かお言葉をいただきましょう。

石田さん いいですかね。そうですね、雇用もあたりもちろん大変だと思うんですが、観光ってのはすごい裾野の広い産業なんですよ。第一次産業、漁業、農業、製造業、建設業、商工業その他全てに渡っております。で、ここが問題になっているんですよ。この若い方たち、もちろんね、雇用を含めてそれをどういうふうにオンリーワンのまちづくり、上越ブランドを構築していくかってことがまず大事だということでもあります。

もう一方で、その寄附した方だけで寄附金のみでどうだという話なんです、じゃあ意地悪な話、寄附した人たちだけが見ていいんですかと。それでじゃあ、上がってくる税収ってのは市に入れなくていいんでしょうか、っていう。また逆の見方もありますよね、寄附金だけで買ってこれって話しますと、じゃあ寄附金が集まればそれでいいのかと、そうじゃないわけです。

何度も言いますが、太刀、（テレビの鑑定番組で話題になった）天目茶碗に限らず、市に対しての税収を潤わせるためのひとつのレバレッジ効果だっている考え方、そしてこれが全て多岐に渡る、全ての産業にあたるものなので、全て雇用、ね、振興、全てね、異業種とのコラボはじめ、カッコだけじゃなくてスポーツ振興、教育、経済産業の全て関わってきますので、私が言いたいのは、是非代替案を出してもらいたいということなんです。

私たちは84ページに亘るプランを出しました。で、できない、できないじゃなくて、是非ですねみなさん、建設的な意見でどうしたらできるかっていうことを、みなさん、せっかくいらっしゃるので、今後みなさんね、建設的な提言を出していただきたいなあ、というふうに思います。特に若い方からね、そういったいいアイデアが出てくると思いますので、私たちは、「義のシンクタンク構想」っていうのも今書いております。年齢を問わず、いい考えを持ってる方はですね、是非シンクタンク作っていいアイデアを出しましょうということを提案しておりますので、是非できないできなくじゃなくて提言して下さい。以上です。

アンカー ありがとうございます。時間がですね、あと15分ほどになりましたので、時間をちょっと頭に入れながらご協力をお願いしたいと思います。

●質問 その11

アンカー ではですね、反対のみなさんに質問ですが、税金で買わないっていうチェンジオルグ(change.org)っていう、ネット署名サイトっていうのが実はありまして、ネットの中で山鳥毛について税金で買うのはやめてねっていうような署名活動っていうのがなされています。

その中で、目標が3328名に設定してあるんですが、現在260名の署名、約12分の1の達成です、だそうです。「この数字について反対のみなさんはどう思いますか」というのが来ております。たとえば、推進、賛成の方たちのほうが地域のこことついて、日常からよりコミットしているのではないか、その差が政策に反映されてるのではないかっていう論点もあろうかと思えます。

「反対のみなさんは、日常どのような活動をしているか。その熱意はどこで発揮されているか。」(会場笑い) 発揮するもんじゃないよって考え方もあるかもしれませんが、そういったのがあるんですが、いかがでしょう。

宮澤さん 検討なりっていうか、ネットでは話し、話しというか、自分はこうこうですっていうような表現はできるし、コメント返ってきたりするのがあるけど、ほかにリアルな生活の中では、僕はさっきから言ってるように朝市とかに出ていて、イベントとかも出てるし、これから朝市自体も作ろうと思ってますし、空き家のほうで雑貨屋さんが新潟から越してきたので、カフェを春に、越してきたのでちょっと今、場所見つけたんで、そこに入ってもらえるかやっているんですね。

それで僕はそういうつながりがあるので、リアルの中でその話をたまにします。でも、刀云々っていうよりは、そういうカフェを作るとか、雑貨屋を作る、朝市を作るっていうところを話しているわけです。

で、そういうのは、「人が来る」というイメージで作るんですよ。それが観光だったりするわけです。市外の人を呼ぶ、当然地域の人もそこに買い物に来るっていうのは当然なんですけど、そういうのを発信すれば来るとは思うんですが、その市外、要は外貨を稼ぐっていうような感じで、市が国だと考えるんですけど、国外って考えますけど、市外。そこから若い人、若い人はねやっぱり動くんですよ消費に関しては、って僕は思っているんですね。

で、年配の人でもバスでバーッと来るかもしれないですけど、そういうのは高田の公園とか春日山とかっていう感じになるかもしれないですけど、実際、個体で動く人たちって、若い人たちが主になるかもしれないので、僕はそういうマーケットっていうか、そういう場所作りを手掛けていま

す。はい。で、その時に税金は使おうとはしません。(会場笑い)

横山さん 私は自分でブログも持っておりますし、それからSNSもやっているの、その中で自分が考えたことを発信をしたりしています。

それ以外にも私はいくつかの市民活動団体に属しております、その中で自分がこういうふうと思うんだけど、というところの問題提議は心がけてやるようにしています。

女性という立場でそういう問題提議をすると、男性が多い会では「まーた何言ってんだね」って言われて、その一言で終わってしまいます。で、女性だけが、女性だけの会合の中では「そんなモノを買うっていうよりも、もっとなんか違うことにお金を使ってほしいよね」とか、観光についても「もっと女性目線の観光もあるよね」とか「地域資源の回り方にも、こういうことをやったらいいんじゃないの」とか、そういう声は上がってきています。

私はA、B、C三つの団体に属していれば、Aの団体で話が出たことをBの団体で問題提議して、Cの団体でまたそれを実践に向けたりというようなことをやっております。それは直接観光に結び付くっていうふうには、ちょっと考えにくいかもしれませんが、それがいずれかのところで上手に反映されればいいなというところでやっております。以上です。

アンカー はい、ありがとうございます。河野さんは？ あります？ 大丈夫ですか(笑) ありがとうございます。

時間がですね、あと9分ほどになりましたので、そろそろ仕上げに入って行かなきゃいけないんですが、ではですね、パネリストのみなさん6人いらっしゃるの、一言ずつ最後に一言という感じで、1分くらいで(会場笑い)、話したい方から、じゃ佐藤さんお願いします。

佐藤さん 最後に5、6分の時間をお願いいたします。

(アンカー「5、6分はないです、すいません」笑)

上越市の上杉謙信公が、19歳から49歳まで30年以上戦って一度も負けない場所が上越市なんです。その上越市ですね、大きな無限なパワーと義の心を授かるパワースポットがこの上越市である。

私はこの会を通じて一言だけお願いがあります。みなさん、知恵のある人は知恵を出してください。技術のある人は技術を出してください。財のある人は財、先ほどお願いしましたね、1000円ぐらい寄附してください。市民がみんなで力を合わせて、最終的には謙信公の義の心で住み良い安心安全争いのないまちづくりが、義の心に繋がると思うんです。これは私たちも含めて、自分から小さなことから実行したいと思っていますので、今日はこれを一言言いたかったんです。ありがとうございました。(拍手)

永野さん 今日はこんなに長い時間ありがとうございました。もうすごいいっぱい意見がいただいて私も勉強になりました。

また子育て世代のご婦人の方とか、また若い人の税金に関する考え方とかっていうのが、すごい聞けて、いやあ我々も勉強になりました。ほんとに大事なものは、そういったことを私たち聞くこともなかったの、市長さんもしっかり耳に入っているらっしゃったと思うので、そういう意味での今回のフォーラムだったのではないかなあというふうに思います。

あともうひとつは、やっぱりあの後世に残すものとして、今の現在の税金云々も大事な議論ではあるんですけども、今回のチャンスを逃したら、ほんとにもうあと、先はないのではないのかな、そういう意味では、あと50年あと100年の先を見た時に、上越に本当に輝かしい宝がまた残るのではないかなというふうに思うと、ほんと今こそ頑張らなきゃいけない時に来てるのかなと。

あと購入のバランスですけど、やはり寄附で頑張っていた中で、それも寄附をどうやって募るんだっていうことをもっともっと議論して、いろんなところから角度から、幅広いところから寄附を募ってもらいたいな、であと足りない分を(チーン)税金で、このバランスが大事じゃないかなって。(拍手)

石田さん 本当にね、勉強させていただきました。私は最後は情報二番目をちょっと言おうと思うんで、最後言わせてもらいますね。

それですね、先ほどからね、刀一本で人が呼べるのか、どれだけ来るのかと言ってるんですが、実は今、日本刀大変なことになってます。ここ(提言書)にも書いたんですけどね、去年、奈良薬師寺6千人が行列してます。何がって、たった1本の「大俱利伽羅広光(おおくりからひろみつ)」ってこれ(刀)、国宝じゃないんですよ。

刀を公開するのに全国から来てますし、これ私、先週行ってきましたこれ。東京国立博物館「春日大社 千年の至宝」展。これも「金地螺鈿毛抜形太刀(きんじらでんけぬきがたち)」これで入るのに40分かかりました。でですね、国宝が太刀が来るっていうことが、今大変なんですね。「刀剣乱舞」っていうゲームがありまして、これが今、460万人ユーザーがいます。この間ビッグサイトで(イベントを)やったら10万人の人が来ました。全国ですよ。三島の佐野美術館、たくさん来てますので、おそらく上越市の方だけが知らないと思うんですが、今空前の日本刀ブームなんですよ。これとタイアップして観光をいかにやるか、ここからの活用方法がまた出るんじゃないかなあって思っております。

今日はですね、本当にですね、貴重な会を設定しました実行委員のみなさま、ほんと私も勉強させていただきました。そしてまたですね、またいいご意見を活かしながらよいまちづくりにですね、健闘していきたいなと思っております。今日はどうもありがとうございました。(拍手)

河野さん 今日は実行委員会のみなさま、この場を設けていただきましてありがとうございました。先ほどトイレの方で話し声が聞こえたんですけども、こういう話し合いの場は今までなかった、というのはほんとすごく思いますし、これからまたこういう機会を作っていただければなあと思います。また太刀購入に関してですが、んー、もう少し頑張って寄附を募るように頑張っていたきたいとおもいます。以上です。(拍手)

横山さん 市民の意識を広げるには議論をする場が必要であるなということ、今日改めて実感を感じました。地域の課題について話し合う場が、なんかこう少ないのかなと思いますので、今後ですね、こういう機会がどんどん増えていけば、市民の力で増えて行けばいいなというふうに思います。

また、こういう場ですね、女性が意見を言えるっていうことが大変少ないので、そういった点では今日こういった場にパネラーとして出させていただいて大変光栄に思っています。

私のような意見を言えるような女性をたくさんこれから育てていくっていうことも、まちづくり

に対しては非常に必要なことなのかなというふうに、改めて思いました。以上です。(拍手)

宮澤さん 長々とありがとうございました。自分、若手で来たんですけども、この3億円、今こういう場で話をさせてもらって、で、3億円を上越市の人口20万人ぐらいで割ると1500円ですね、税金としては。

で、僕は税金払いたくはないけど、その部分に関してはね、払いたくないけど、こういう場で勉強させてもらった賃としては、あの出せるかなと思ってます。(会場から唸り声) っていうことは、こういう話し合いをしたことで何か変わる、っていう事象が起こるんです。

なので多分そっち(客席)で聞いてたら、多分僕はまだ払いたくないって感じかもしれないけど、こういう場に出て話すっていうことをやったことにおいて、そういうのがちょっと変わってくる、ってのがあるので、そういうのを進めてもらえばいいと思うんですね。で、進めてる方は年配の方もいかもしれませんが、若い方をちょっと巻き込んでもらってやってもらいたいですね。

で、あとは(チーン) 今日26日ですけど、明日27日なんで二・七の市やってますんで来てください。(会場笑い) 僕いませんけど。以上です。ありがとうございました。(拍手)

アンカー はい、ありがとうございました。時間もだいぶ迫ってまいりました、ここまで長い時間ご協力いただきまして大変ありがとうございました。ほんとにそれぞれが思うところをもって、それを表現し合うっていうのは大変なことであろうし、あと、それを日々受け止めている市長の村山さんは大変だろうと思うんですけど尊敬します。(会場笑い)

今日僕アンカーとして役を務めさせてもらいましたが、できるだけ、僕自身は僕の意見持ってますけども、今日はアンカーとしての役割を全力で務めさせていただきました。至らないところもあったかと思いますが、また次のこういう機会があるかわかりませんが、次のステップに活かしていきたいなあと考えております。

で、ちょっとだけ一言言わせてもらおうと、メモ書きをこういう場所で意見を求めた時は短めに(客席見せて、会場笑い) 書いた方が目に留まるっていうことを、今日僕知りました。すごい熱心に長く書いてもらってもね、読めないんですよ。(笑い)

なので本質を一言で書いていただくと、目に留まって活かされるっていうのはちょっと次があるかどうかわかりませんが、覚えておくといいかと思いました。

ということで、非常になんて言うんでしょうね、平和にじゃないな、明るく、意見を表明し合っ、もちろんね、全部をこれで納得するって行かないでしょうし、民主主義ですから最終的には3月議会で決まることですから、ここから先はですね、市議会議員のみなさんのお仕事になろうかと思えます。

市議会議員のみなさんの周りです、それぞれの意見を出し合ったり聞いてもらったりして、議員のみなさんもたくさん来ていらっしゃると思いますけど、そういったね、賛成反対もいろんな思いを汲み取って、議会の中で反映してもらって、どこかに落とすところとかですかね、何かしらこういった意見を表明し合ったことが活かされていくといいんじゃないかなと思っております。

せっかくやったのにね、あ、結局同じかって、がっかりする場合もあるかもしれません。ちょっとでも何かね、妥協というのも違うかもしれませんが、議論の中でできるだけ恨みが残らないように(笑い)、これから前に進めるように、何かしらの結論を、結論を出すのもね、辛い立場な

んだらうと思いますけれども、頑張っていたきたいなと思います。

今日は長い時間ご協力いただきまして、大変ありがとうございました。ここで司会のほうにバトンタッチしたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

10 アンケート

司会 それではこれより、会場みなさまにアンケートを取りたいと思います。が、アンカーの中村さんにちょっとお願いがありまして、アンケートの前に、「アンケートを取ることに意味があるのか」というご質問があったので…

アンカー 俺答えていいの？ 実行委員長？

実行委員長 アンカーに。

アンカー 俺答えるの。じゃあ実行委員長から今託されたので代わりに、多分こう思っているというのを答えたいと思います。アンケートは何に活かされるかっていうと、このあと今日の話合いの過程もできるだけ記録に残しまして、市議会議員に全員送るんだよね？(実行委員長「はい」)

で、このあとの議論の参考にしてもらおうっていう趣旨になっているはずというか、なってますので、アンケートを出していただいて、今日ここに集まったっていうことは、それだけ気持ちがあるということだと思って、反対にしる賛成にしる、そういった方がどの程度集まって、そういう表現、ひとつの表現ですよ。今日の結果、アンケートの結果っていうのは。

そういうような出されて、そこの最終的に3月議会の中で参考にしてもらいたいということだと思います。いい、それで？(笑)

司会 ありがとうございます。それでは、お手元にあるアンケート用紙、先ほど小さいものを提出された方もいらっしゃると思いますが、フォーラムにご参加いただいた上で、現時点でどうお考えになるか、選んで○印をつけてください。

選択肢は

- 1 募金・寄附金の額にかかわらず、全額税金のみで購入すべきだ
- 2 募金・寄附金は集めるが、税金で購入してもかまわない
- 3 募金・寄附金のみで購入するならば購入してもかまわない
- 4 山鳥毛の購入は一切不要だ

の4つとなっております。今から実行委員が席を回って集めさせていただきます。よろしく願います。

司会 それでは、本日会場にお越しいただいたみなさんに書いていただいた、「山鳥毛を税金で買うか否か」投票結果を発表したいと思います。読み上げていきます。

(司会者がアンケートに書かれた数字を1枚ずつ読み上げ、実行委員がホワイトボードに正の字を書いていく)

それでは会場アンケートの結果を発表します。(有効票数 88票)

- 1 募金・寄附金の額にかかわらず、全額税金のみで購入すべきだ 9票
- 2 募金・寄附金は集めるが、税金で購入してもかまわない 46票
- 3 募金・寄附金のみで購入するならば購入してもかまわない 23票
- 4 山鳥毛の購入は一切不要だ 10票

という結果になりました。アンカーの中村さん、この結果をどのようにご覧になりますか？(会場笑い)

アンカー はい、ありがとうございました。ありがとうございます。

今のですね、まず第一感としてこの数字を見たときに、実はこの部屋が定員80人なんですよ。ちょっと入れすぎたっていう(笑)これは怒られるかもしれないですけど心配してました。

民主主義のルールっていう、ルールを作るって非常に難しいテーマがありまして、たとえばですね、住民集会を議決機関にしてるアメリカの自治体なんかもあったりするんですよ。で、そういうときにこの議決の方法が、これで2番に決定だっていう、やりかたもあるんですね、実はね。そういうときに、そういうやりかたがいいのか悪いのかとかは別にして、ひとつの表現ではあると思います。

今の日本は議会制民主主義っていうね、ことでやっておりますんで、決定、議決機関は3月の予算の議会でなされると思いますが、その中に、こういった市民の表現がこのようになされたっていうのが反映されるといいなと思います。

さっきもね、僕、先に感想言ってしまいましたけど、今日本当にご協力いただきましてありがとうございました。(拍手)

11 村山秀幸市長 挨拶

司会 本日の[山鳥毛フォーラム]、いかがでしたでしょうか。

ここで村山秀幸上越市長から感想などお伺いできればと思います。(会場笑い)長時間のところ申し訳ないですが、よろしくをお願いします。

村山秀幸市長 みなさん大変お疲れさまでございました。

率直に言って行政の政策がですね、市民のみなさんお一人お一人にどれだけ関心を持たれているか、関心を持とうとしてもその情報がない、その中でどうやったら我々が情報の公開をしながら説明をきちっとしていくか、それこそが今日このフォーラムで初めてですよ。そういう空気があって、市もそういうことも大事だなというのが、そういうことをやっぱり前提としながら市民の声を吸い上げて我々政策に、そしてまた議会での議論に活かしていくことが必要なんだろうと思いました。

今日、これだけ多くの人が集まってもらいましたけれども、そのみなさんの答えが全てではありません。ですから議会全体、上越市全体の中で、また考えていく機会がこの3月議会であろうと思いますので、その中でまた議論をしていけばと思いますが、今日初めて、自分の意見だけを固執しながら議論して、相手の意見を潰そうとかですね、そういう対立的な場ではなく、まさに対話、この対話の中で相手を思い、また自分自身のことをわかってもらおうとする努力が、大変みなさんにはずいぶん感じられました。本当に感謝申します。お疲れさまでした。

そしてまたお聞きいただいたみなさんにもですね、紳士的にそのお話を聞いていただきながら、最終的に感じたものを、こういう図（ホワイトボードのアンケート結果）になったと思いますが、これも当初来た時とは違うところにですね、○をつけた方も多分おられるかもしれません。

そのようなことがこの会の大きな意味だったのだろうっていうふうに思いますので、今日のこの会の雰囲気を含めてですね、市も大きくなりましたので、これをなるべく活かして、上越の取り組みに頑張っていければと思っています。大変ありがとうございました。お疲れ様でした！（会場拍手）

司会 村山市長、長いお時間でしたがありがとうございました。今日は市民手作りのフォーラムにご参加いただき本当にありがとうございました。

12 閉会

司会 それでは最後に山鳥毛フォーラム実行委員会副委員長、松澤優作から閉会のご挨拶を申し上げます。

副実行委員長 松澤さん みなさま長い間お疲れさまでした。上越市民の方がどれだけ関心を持ってこの会に参加していただけるかどうかとても不安でしたが、当初の座席数を上回るみなさんにご参加していただきとてもうれしく思います。

私自身、この山鳥毛をきっかけにしまして、上越のことに関心を持つ良い機会になったと思います。本日はどうもありがとうございました！（会場拍手）

司会 ありがとうございました。以上をもちまして「山鳥毛フォーラム 山鳥毛の購入に税金を使っているのか。一税金を使うことの重さを考える」全ての次第を終了させていただきます。本日はご多忙中にもかかわらず多数お集まりいただきまして誠にありがとうございました。

本日のフォーラムでいただいた質問ご意見などにつきましては、実行委員会より上越市議会事務局を通じて上越市議のみなさんに市民の声として提出いたします。

市民として3月の議会を見守りましょう。本日は長時間にわたりありがとうございました！

（了）

